

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2007年度

2008年3月

池田市教育委員会

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の縁、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営みを始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展しました。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、昔の面影がしおぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

池田市教育委員会
教育長 村 田 陽

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成19年度国庫補助事業（総額1,200,000円、国庫50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課が実施し、中西正和が現地を担当した。
3. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。
4. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修）による。
5. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目 次

I 歴史的環境.....	1
II 池田城跡.....	5
池田城跡第5 6次調査.....	6
III 神田北遺跡.....	8
神田北遺跡第1 5次調査.....	9
IV 宮の前遺跡.....	10
宮の前遺跡第4 4次調査.....	11
宮の前遺跡第4 5次調査.....	12
報告書抄録	

図 版

図版1	1) 池田城跡第5 6次調査 トレンチ全景（東から）
	2) 池田城跡第5 6次調査 トレンチ全景（南東から）
図版2	1) 神田北遺跡第1 5次調査 トレンチ全景（北から）
	2) 宮の前遺跡第4 4次調査 トレンチ西側全景（北東から）
図版3	1) 宮の前遺跡第4 4次調査 トレンチ東側全景（北東から）
	2) 宮の前遺跡第4 5次調査 トレンチ全景（南から）

挿 図 目 次

I 歴史的環境	
第1図 煙出上有茎尖頭器.....	1
第2図 遺跡分布図.....	2
第3図 豊島南遺跡土器出土状況.....	3
第4図 煙三堂古墳.....	3
第5図 池田城跡主郭部.....	4
II 池田城跡	
第6図 池田城跡第5 7次調査.....	5
第7図 調査地位置図.....	5
第8図 トレンチ位置図.....	6
第9図 トレンチ平・断面図.....	7
第10図 池田城跡縄張り図	7

III 神田北遺跡	
第11図 神田北遺跡第11次調査土器出土状況	8
第12図 調査地位置図	8
第13図 トレンチ位置図	9
第14図 トレンチ南壁断面図	9
IV 宮の前遺跡	
第15図 宮の前遺跡第43次調査地	10
第16図 調査地位置図	10
宮の前遺跡第44次調査	
第17図 トレンチ位置図	11
第18図 トレンチ平・断面図	11
宮の前遺跡第45次調査	
第19図 トレンチ位置図	12
第20図 トレンチ西壁断面図	12

I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央に五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50mの緩やかな五月丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

旧石器時代

旧石器が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡、神田北遺跡が挙げられるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山丘陵西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大坂府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器、平成元・7年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡発掘調査でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。神田北遺跡では、平成9年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴う調査で国府型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

縄文時代に関する遺跡も少ない。市域北部で遺物が確認されている遺跡は、古江遺跡から石匙、木部遺跡からは石鏃が検出されている。市内中部の伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鏃、京中遺跡でサヌカイト製の石鏃・石匕が採取され、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏃や晩期の生駒西麓座突帶文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匙、宮の前遺跡では石棒が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、土器は少量で、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で、弥生時代前期から後期の土器が出土し、平成15年度の調査においても前期から中期の土



第1図 煙出土有茎尖
頭器



第2図 遺跡分布図

器が出上している。

弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設とともに、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月山丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ペッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。また、台地上的神田北遺跡においては、竪穴住居跡、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。

古墳時代

市内に残る古墳時代前期の古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、竪穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、明治時代に石室内から画文帶神獸鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓域内に竪穴式石室と粘土櫛が存在することが確認されている。

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

古墳時代後期では古江古墳、善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。古江古墳は平成17年に電波塔工事によって破壊され、その際の事後調査によって、須恵器、鉄刀が出土した。上記の小古墳が築造された一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、鉢塚古墳と二子塚古墳は異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居跡が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると、少しではあるが検出遺構も増す。宮の前遺跡では竪穴住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴住居跡、溝が検出されている。

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡と



第3図 豊島南遺跡土器出土状況



第4図 娘三堂古墳

しては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積庵寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、土師氏によって開発が推進されたとされる呉庭荘と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱頃から摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国に

より、池田氏は降伏を余儀なくされる。その後、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、塙列建物跡等を確認している。池田城の主郭以外でも調査が行われ、平成19年度の調査では15世紀終わりの塙を検出している。

参考文献

- 『原始・古代の池田』 池田市立池田中学校地歴部 1985年
- 『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年
- 『禅城寺・宇保・神田北遺跡』 大阪府教育委員会 2002年



第5図 池田城跡主郭部

II 池田城跡

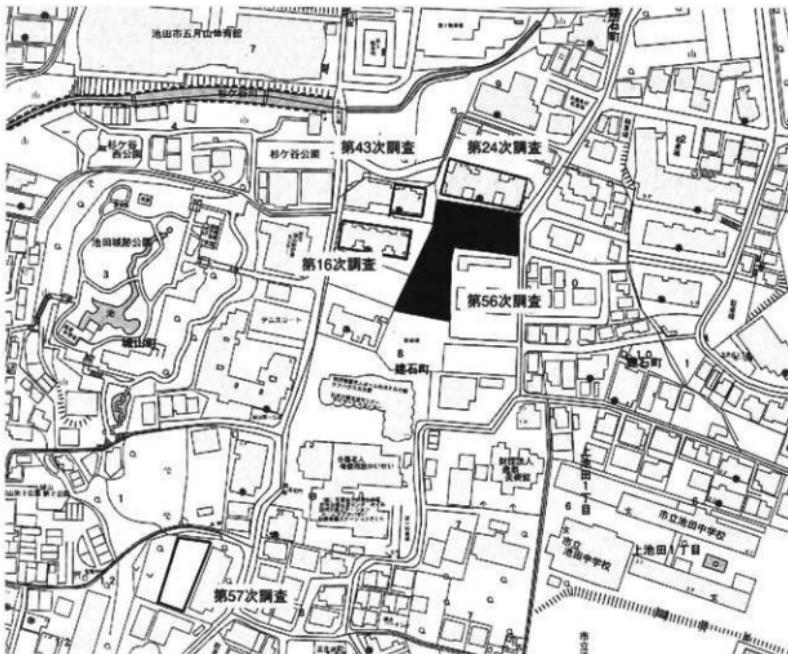
はじめに

池田城は、池田市城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもできることから、池田城は当時の交通の要衝に選地されていたことが判る。

池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀後半頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被



第6図 池田城跡第57次調査



第7図 調査位置図

官として、幾度かの落城を経験しながらも、莊園經營や高利貸經營により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われる。その後、池田城は村重の有岡城入城に伴い、廢城となり、政治・經濟支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城全体の構造について不明な点が多く残っていたが、昭和43・44年に主郭の一部が発掘調査され、礎石を伴う建物跡、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる壠列建物等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で人手口が存在することや平成19年度の池田城跡第57次調査では15世紀終わりの堀が検出されており、少しづつではあるが池山城の全容が解明している。

また、池田城以前の時代について、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、平成3年度の池田城跡第24次調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。

池田城跡第56次調査

調査の概要

池田市建石町1936-3において、共同住宅建築に先立ち実施した試掘調査である。

調査地は主郭部より東に位置し、北側の池田城跡第24次調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡を検出しており、調査地西側の池田城跡第16・43次調査では堀を検出している。

今回の調査は堀の有無、遺構面の深さを確認することを主眼とし実施した。

調査面積は8m²である。

基本層位は

第1層 表土

第2層 褐色砂質土

第3層 暗赤灰色シルト

第4層 暗赤褐色砂レキ層及び褐色粘質シルトの
地山である。



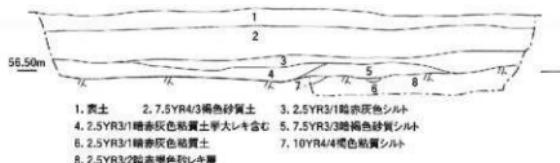
第8図 トレーニング位置図

遺構は第4層上から柱跡及び杭跡を検出したが、建物跡等の復元はできなかった。また、堀は検出できなかった。

出土遺物は第2層から近世の磁器等が出土したが、他には出土遺物はなかった。

堀が検出されなかったことと、調査地周辺の調査結果から、堀の東側はほぼ真直ぐに北に伸びて

いると考えられる（堀の西側は、池田城跡第43次調査の結果から屈曲させていたと考えられる）。



第9図 トレーンチ平・断面図



第10図 池田城跡縄張り図

III 神田北遺跡

はじめに

神田北遺跡は池田市神田1・2丁目、八王子1丁目一帯にひろがる旧石器時代から中世にいたる複合遺跡である。

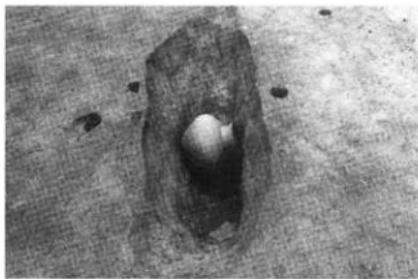
当遺跡は昭和50年に石器の発見により周知される。同年、発掘調査が行われ、縄文時代の石器、弥生時代後期の土塙や須恵器等が見つかっている。

その後のマンション・住宅建築等に伴う事前の発掘調査により、弥生時代後期の竪穴住居跡、奈良時代の掘立柱建物跡、溝、中世の掘立柱建物跡などが見つかり、徐々にではあるが遺跡の概要が判明しつつある。また、平成11年の大阪府教育委員会による調査では、国府型ナイフ形石器が見つかっており、旧石器時代まで遡る遺跡であることが判明している。

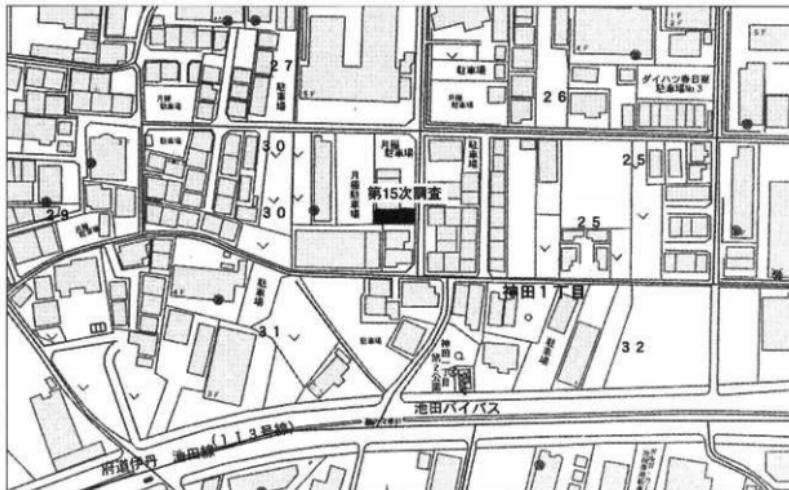
また、周辺の調査として、神田北遺跡より北に位置する禪城寺遺跡では、飛鳥時代の竪穴住居跡が見つかっている。

参考文献

大阪府教育委員会「禪城寺・宇保・神田北遺跡」2002年。



第11図 神田北遺跡第11次調査 土器出土状況



第12図 調査地位置図

神田北遺跡第15次調査

調査の概要

調査は神田1-1278-7において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査地の西にトレンチを設定し調査を実施した。調査面積は6m²である。

層序は

第1層 盛土

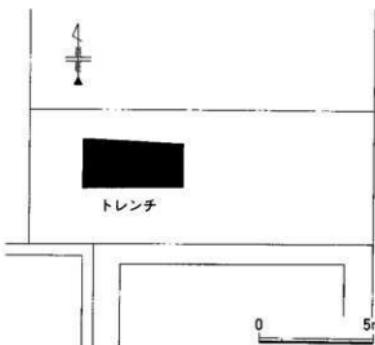
第2層 にぶい黄色粘土

第3層 暗緑灰色粘土

第4層 黄褐色粘土の地山である。

調査の結果、遺構・遺物は検出できなかつた。

第3層の暗緑灰色粘土により、調査地周辺は湿地だったと考えられる。



第13図 トレンチ位置図



第14図 トレンチ南壁断面図

IV 宮の前遺跡

はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地する。

宮の前遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取されており、遺跡の存在が知られていたが、本格的な調査は行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。昭和43・44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴住居跡、古墳等が検出された。特に、当時検出例が少なかった方形周溝墓が住居とともに多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目されるようになった。他にも、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、昭和61年度の大坂府教育委員会による調査、平成元・7年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明し、遺跡の範囲は東西700m、南北900mと拡大している。

周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、古墳時代前期の竪穴住居跡が検出された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、須恵器を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、古墳時代前期の掘立柱建物跡が検出された螢池東遺跡、国府型ナイフ形石器が出土した螢池西遺跡がある。



第15図 宮の前遺跡第43次調査地



第16図 調査地位置図

参考文献

- 「宮之前遺跡発掘調査概報」 宮之前遺跡調査会 1970年
『豊池北遺跡（宮の前遺跡）』 豊中市教育委員会 1995年
『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年
『住吉宮の前遺跡』 (財) 大阪府文化財調査研究センター 2001年

宮の前遺跡第44次調査

調査の概要

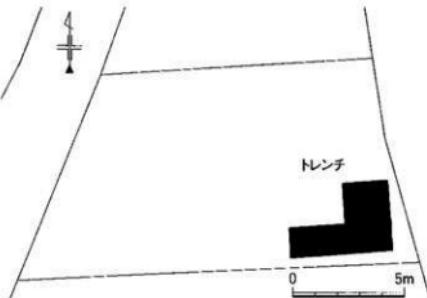
石橋4丁目86-5において実施した建売住宅建築に伴う試掘調査である。残土置き場がないため、調査は反転掘りで行い、西部分を調査後、東部分の調査を行った。調査面積は8m²である。

層序は

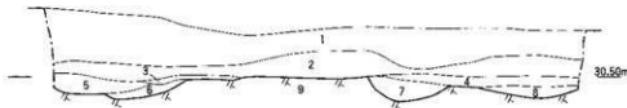
第1層 盛土

第2層 耕土・床土

第3層 褐色粘質シルト（西南部の一



第17図 トレンチ位置図



第18図 トレンチ平・断面図

部に残る。)

第4層 暗褐色粘質シルト（西南部の一部に残る。）

第5層 にぶい赤褐色粘質シルトの地山である。

調査の結果、耕作痕と考えられる溝（溝1・2）、土坑、ピット等を確認するが、数は少なく、性格等は不明である。

出土遺物は土坑1より土師質の土器を検出するが、小片のため図化はできなかった。

宮の前遺跡第45次調査

調査の概要

住吉1-37-6において実施した建売住宅建築に伴う試掘調査である。調査面積は4m²である。

層序は

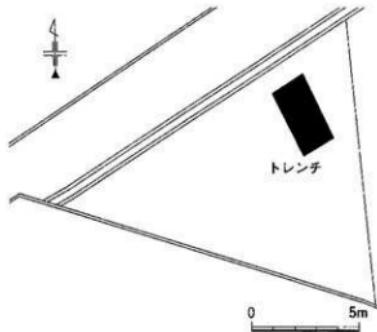
第1層 表土・盛土

第2層 旧耕土

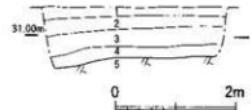
第3層 黒褐色シルト（小レキ含む）

第4層 明黄褐色粘質シルトの地山である。

調査の結果、遺構・出土遺物は確認できなかつた。



第19図 トレンチ位置図



1. 表土 2. 盛土 3. 10YR5/3に近い青褐色シルト(田植土)
4. 10YR2/3黒褐色シルト(小レキ含む) 5. 10YR7/6明黄褐色粘質シルト

第20図 トレンチ西壁断面図



1) 池田城跡第56次調査 トレンチ全景（東から）



2) 池田城跡第56次調査 トレンチ全景（南東から）



1) 神田北遺跡第15次調査 トレンチ全景（北から）



2) 宮の前遺跡第44次調査 トレンチ西側全景（北東から）



1) 宮の前遺跡第44次調査 トレンチ東側全景（北東から）



2) 宮の前遺跡第45次調査 トレンチ全景（南から）

報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう					
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報					
副書名	池田市文化財調査報告第34集					
巻次						
シリーズ名	池田市文化財調査報告					
シリーズ番号	34					
編著者名	中西正和					
編集機関	池田市教育委員会					
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 TEL072-752-1111					
発行年月日	2008年3月31日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード			調査面積	調査原因
		市町村	番号	北緯 東経		
いけだじょうせき 池田城跡第56次	たていしちょう 建石町1936-3	272043	—	34度 135度 49分 25分	070417	共同住宅建設のための試掘調査
		"	—	38秒 49分	070420	
こうだきたいせき 神田北遺跡第15次	こうだ 神田1-1278-7	"	—	34度 135度 48分 25分	070425	個人住宅建設のための試掘調査
		"	—	41秒 43分		
みやのまえいせき 宮の前遺跡第44次	いしばし 石橋4-86-5	"	—	34度 135度 48分 26分	071126	建売住宅建設のための試掘調査
		"	—	02秒 37分	071128	
みやのまえいせき 宮の前遺跡第45次	すみよし 住吉2-37-6	"	—	34度 135度 48分 26分	080108	建売住宅建設のための試掘調査
		"	—	05秒 27分		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
いけだじょうせき 池田城跡第56次	城館跡・集落跡	中世	柱穴	—		
こうだきたいせき 神山北遺跡第15次	集落跡	弥生・中世	—	—		
みやのまえいせき 宮の前遺跡第44次	集落跡	弥生・中世	柱穴・溝	弥生土器(?)		
みやのまえいせき 宮の前遺跡第45次	集落跡	弥生・中世	—	—		
要約	池田城跡第56次調査では、おおよその堀の位置が判明する。					

池田市文化財調査報告第34集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報
2007年度
2008年3月
発行 池田市教育委員会
池田市城南1丁目1番1号
編集 社会教育課
印刷 株式会社 河西喜昇堂